

資料

平成 28 年度第 3 回国土技術政策総合研究所研究評価委員会

分科会（第三部会） 議事次第・会議資料

平成 28 年度第 3 回国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第三部会）

議 事 次 第

日時：平成 28 年 7 月 29 日（金）

場所：三田共用会議所
3 階大会議室

1. 開会
2. 国総研所長挨拶
3. 分科会主査挨拶
4. 本日の評価方法等について
5. 議事
 <平成 29 年度新規事項立て研究課題の事前評価>
 ・地震災害時における空港舗装の迅速な点検・復旧方法に関する研究
6. 国総研副所長挨拶
7. 閉会

会 議 資 料

	頁
資料 1 平成 28 年度第 3 回国土技術政策総合研究所研究評価委員会 分科会（第三部会）委員一覧	47
資料 2 本日の評価方法等について	48
資料 3 研究課題資料 地震災害時における空港舗装の迅速な点検・復旧方法に関する研究	50

注) 資料 3 については、研究評価委員会分科会当日時点のものである。

注) 事前評価の課題名は研究評価委員会分科会当日時点のものである。

平成28年度 第3回国土技術政策総合研究所研究評価委員会 分科会
（第三部会）委員一覧

第三部会

主査

兵藤 哲朗 東京海洋大学教授

委員

岩波 光保 東京工業大学教授

喜多 秀行 神戸大学教授

中野 晋 徳島大学教授

野口 哲史 (一社)日本埋立浚渫協会 技術委員会委員長
五洋建設(株) 取締役 土木本部長

二村 真理子 東京女子大学教授

横木 裕宗 茨城大学教授

※五十音順、敬称略

本日の評価方法等について

（第三部会）

1 評価の対象

平成29年度新規事項立て研究課題

※事項立て研究課題：国総研が自ら課題を設定し、研究予算(行政部費)を確保し実施する研究課題

2 評価の目的

「国の研究開発評価に関する大綱的指針」、「国土交通省研究開発評価指針」、「国土交通省政策評価基本計画」等に基づき、公正かつ透明性のある研究評価を行い、評価結果を研究の目的、計画の見直し等に反映することを目的としている。

3 評価の視点

必要性、効率性、有効性について、以下の観点を踏まえ、国総研として実施すべきか、事前評価を行います。

【必要性】科学的・技術的意義、社会的・経済的意義、目的の妥当性等

【効率性】計画・実施体制の妥当性等

【有効性】新しい知の創出への貢献、社会・経済への貢献、人材の育成等

評価にあたっては、研究開発課題の目的や内容に応じ、研究課題毎に初期、中期、後期のステージに振り分け、それぞれの段階に応じて、以下の重視すべき点を踏まえた評価を行います。

（初期：革新性、中期：実効性や実現可能性、後期：普及・発展に向けた取組）

4 進行方法

当部会が担当となっている研究課題毎に評価を行います。

（1）研究課題の説明（10分）

研究内容、必要性・効率性・有効性の観点等からの説明

（2）研究課題についての評価（20分）

① 欠席の委員から事前に伺っている意見の紹介（事務局）

<欠席の委員からの意見はありません>

② 主査及び各委員により研究課題について議論

※ 意見については「評価シート」に逐次ご記入下さい。

③ 審議内容、評価シート及び事前意見をもとに、主査に総括を行っていただきます。

5 評価結果のとりまとめ及び公表

評価結果は審議内容、評価シートをもとに、後日、主査名で評価結果としてとりまとめ、議事録とともに公表します。

なお、議事録における発言者名については個人名を記載せず、「主査」、「委員」、「事務局」、「国総研」等として表記するものとします。

（参考）研究評価委員会分科会（7月開催）の開催日程

- 第1回 国総研研究評価委員会分科会（第一部会）
平成28年7月8日（金） 15：00～17：00 於：三田共用会議所

- 第2回 国総研研究評価委員会分科会（第二部会）
平成28年7月27日（水） 10：00～12：10 於：三田共用会議所

- 第3回 国総研研究評価委員会分科会（第三部会）
平成28年7月29日（金） 13：00～14：30 於：三田共用会議所

研究概要書：地震災害時における空港舗装の迅速な点検・復旧方法に関する研究

研究代表者名：空港研究部 空港施設研究室長 坪川将丈
関係研究部：空港研究部
研究期間：平成29年度～平成31年度
研究費総額（予定）：約20百万円
技術研究開発の段階：中期段階

1. 研究開発の概要

地震後の空港供用再開を迅速且つ確実に実行するため、空港舗装（滑走路・誘導路・エプロン）の被害程度や調達可能機材に応じ、空港管理者（国土交通省航空局・地方公共団体・空港会社）が被害を迅速に点検し、復旧方法を選択する上での判断基準を確立する。

2. 研究開発の目的・目標

地震時の空港舗装の被害の点検・復旧の判断基準を確立することにより、空港管理者が地震後の空港における復旧優先順位の設定及び復旧を迅速に行い、空港がいち早く緊急輸送の拠点として機能することを可能とする。

3. 自己点検結果

（必要性）

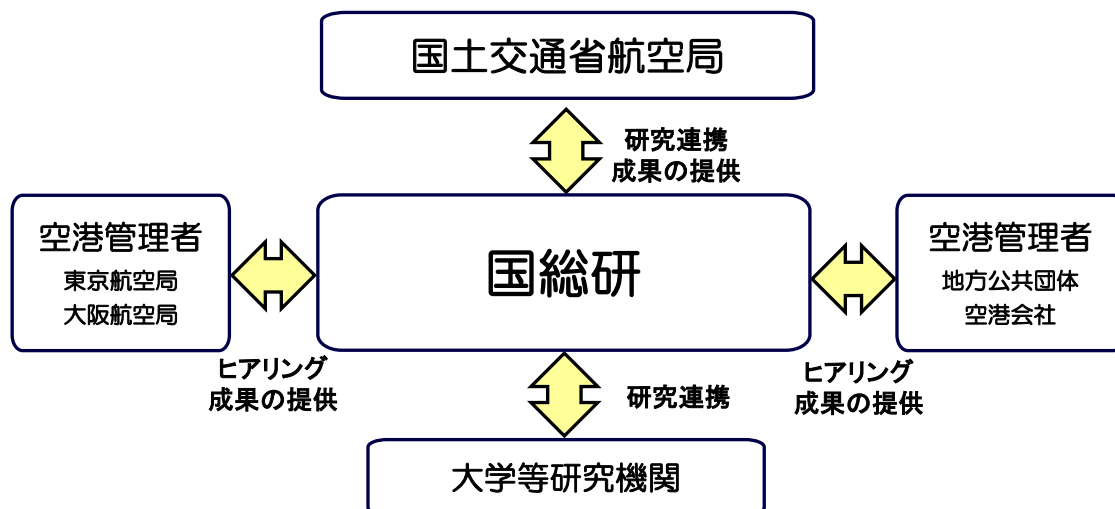
平成28年熊本地震において熊本空港が緊急輸送の拠点として機能したように、地震時に空港の果たす役割は大きい。地震が発生すると、空港管理者は緊急点検を実施し、空港舗装の被害を速やかに確認し、空港運用に支障となりうる被害は速やかに復旧する必要がある。しかしながら、空港管理者の多くは空港舗装の地震被害に関する十分な専門的知識を有しておらず、点検方法や復旧方法の決定に時間を要する恐れがある。そのため、空港舗装の被害程度や調達可能機材に応じ、空港管理者が被害を迅速に点検し、復旧方法を選択する上での判断基準が必要である。

（効率性）

空港舗装の調査・補修等について国土交通省航空局が定めている「空港舗装補修要領」の原案作成を担う国総研が実施した関連研究や過去の地震被害調査の知見を用いることで、効率的な研究が可能である。また、空港舗装に関する技術的知見を有する国総研が主体となり、空港管理者と連携を図ることにより、実効性の高い成果を得ることが可能である。

●研究の実施体制

実効性の高い成果を得るため、空港管理者にヒアリング等を実施する。また、舗装材料特性に関する検討が必要な場合には、大学等研究機関と連携する。



●研究の年度計画と研究費配分

年度計画と研究費配分

区分 (目標、テーマ、分野等)	実施年度			総研究費 約 [百万円]
	H29 約7	H30 約8	H31 約5	研究費配分 約20
点検方法と判定基準の検討	調査 -----	試験 -----	まとめ -----	約10
復旧方法の選択基準の検討	調査 -----	調査 -----	まとめ -----	約7
地震時の点検・復旧マニュアルの作成		素案 -----	まとめ -----	約3

(有効性)

空港管理者が地震後の空港舗装を迅速に点検・復旧するための判断基準を確立することにより、地震後の空港供用再開を迅速化し、いち早く空港が緊急輸送の拠点として機能することが可能となる。

研究課題名:地震災害時における空港舗装の迅速な点検・復旧方法に関する研究(事項立て課題)

研究開発の目的	研究開発の目標	研究成果	研究成果の活用方法(施策への反映・効果等)	備考
空港管理者が空港舗装を迅速に点検・復旧するための判断基準の確立	点検方法と判断基準の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・既往被害事例を参考とした目視による一次判定基準 ・FWDや大型消防車を用いた詳細点検方法と二次判定基準 	<ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省航空局「空港舗装補修要領」等に反映 ・各種研修や空港管理者向けの会議で活用 	
	復旧方法の選択基準の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・調達可能な舗設機械が限定されることを考慮したアスファルト舗装復旧方法の選択基準 ・沈下したコンクリート舗装をアスファルト混合物で復旧する場合の適用条件 		
	地震時の点検・復旧マニュアルの作成	空港管理者が地震後に点検・復旧を行うためのマニュアルの作成		